

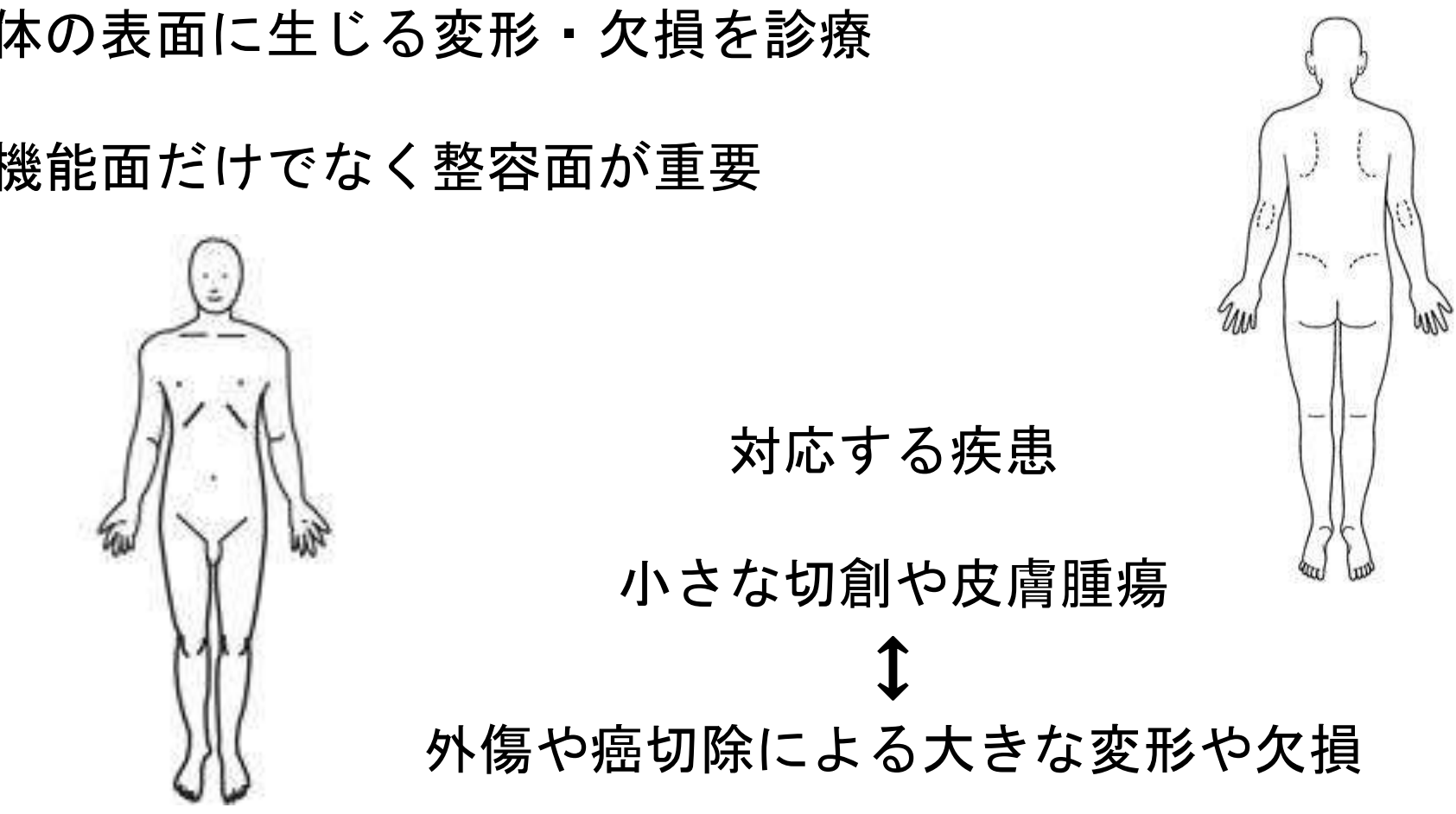
福井大学形成外科学教室

形成外科とは

形成外科では頭から足先まで体の表面すべてを扱う

体の表面に生じる変形・欠損を診療

機能面だけでなく整容面が重要



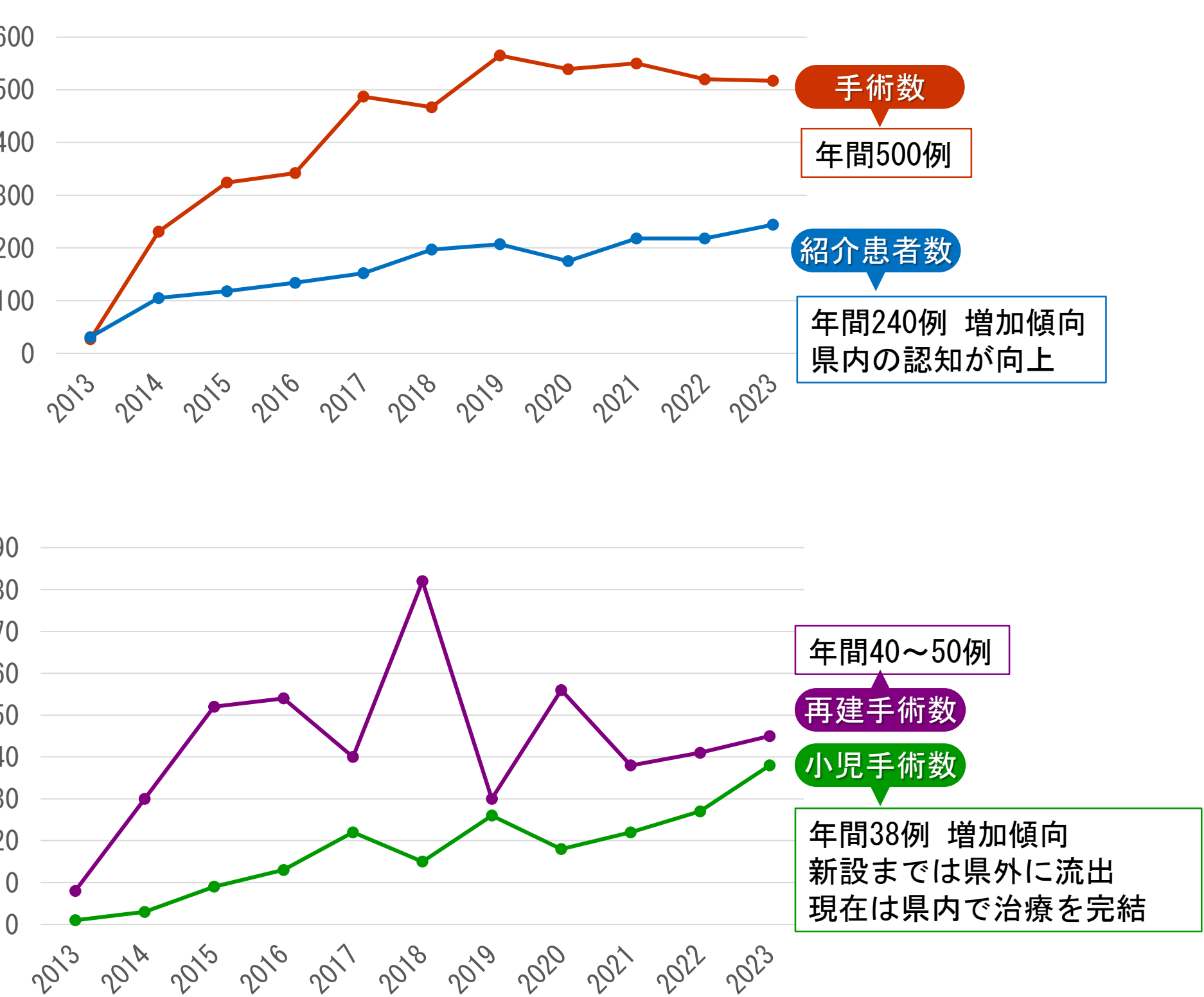
きれいになおすことを目指してきめ細かい治療を行う

福井県の形成外科の現状



福井大学形成外科新設後の診療の推移

2013年に福井大学医学部附属病院に形成外科が新設



形成外科専門研修プログラム

(1) 4年間の研修

(2) 必要な経験症例数

外傷	60例（うち10例 執刀）
先天奇形	15例（うち 4例 執刀）
腫瘍	90例（うち18例 執刀）
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	15例（うち 3例 執刀）
難治性潰瘍	25例（うち 3例 執刀）
炎症・変性疾患	15例（うち 2例 執刀）
美容	必須ではない
その他（眼瞼下垂など）	15例（うち 2例 執刀）

必要な症例数に追加して総計 300例（うち 80例 執刀）

(3) 8分野のうち5分野以上で、難易度の高い10種類の執刀症例が必要

福井大学研修プログラム



2018年より新専門医制度が開始

本学卒業生5名、他学卒業生3名受け入れ
専門医取得1名、研修中7名

福井大学研修の顕著な優位性

形成外科専門医資格の最難関

8分野のうち5分野以上で、難易度の高い10種類の執刀症例が必要

大都市と福井の比較	大都市	施設が多い 分野の棲み分けが進む	特定の分野に研修が片寄る
	福井	施設が少ない すべての分野に対応	1施設ですべての分野が網羅できる

福井大学で研修した方が、すべての分野でたくさんの症例を執刀できる

研修する若手医師のメリットが大きい

福井大学では豊富な症例数で圧倒的な臨床力を修得させます